

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2775502012
法人名	社会福祉法人 朋寿会
事業所名	あすか八尾グループホーム
所在地	大阪府八尾市南太子堂4丁目1番14号サンライズ東宝2F (電話) 072-925-7111

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年8月8日	評価確定日	平成20年9月18日

## 【情報提供票より】(平成20年 7月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 3人, 非常勤 7人, 常勤換算	8.7 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	7階建ての	2階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50000又は55000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1200 円	

### (4) 利用者の概要( 7月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	81.72 歳	最高	92.65 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	つちだクリニック 板東ひまわり歯科クリニック 八尾徳州会総合病院
---------	----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR関西本線久宝寺駅から少し離れた住宅地に位置し、マンションの1階部分に小規模多機能が併設され、2階部分に当該グループホームがあります。広々とした共有空間には、リビングが3ヶ所あり、それぞれに寛げるよう空間作りがされています。また、生活感のあふれる入居者の居室には、以前から使い慣れたものや年代にあった落ち着いた家具が置かれ、家庭の雰囲気が作られています。計画作成担当者が中心となり、生活歴や心身の状況を踏まえた介護計画を立て、職員全員で実践に取り組んでいます。開設後4年を迎え、安定した生活を過ごしている反面、徐々に加齢によるADLの低下がみられる入居者もあり、リハビリや外出等による現状の維持に努めていたり、ターミナル期や重度化の対応についての体制作り力を入れているホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の外部評価を受けて、外部研修の伝達研修を取り組み始めました。会議の時間を活用し伝達研修等の内部研修を行っています。また、言葉遣いの乱れについては、お互いに注意し合うことで、改善につながりました。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の外部評価は、職員全員に自己評価の項目を周知し、計画作成担当者が中心となり職員と話し合い、管理者が最終的に取りまとめました。取り組んでいきたい内容については、会議で話し合い意見を集約しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度、民生委員と高齢クラブ、市職員、家族、利用者、職員がメンバーとなり、隣接する同法人の小規模多機能施設と合同で運営推進会議を開催しています。ホームでの行事や暮らしぶりの報告を始め、地域との連携について要望、助言などについて話し合い、サービスに活かしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月計画作成担当者が手書き手紙を書いたり、3ヶ月に1度ホームの広報誌を家族に郵送し、個々の入居者の日常の様子やホームの行事等を伝えています。そして、面会時のコミュニケーションを通じて要望や思い等を聞くよう心がけています。現状では、要望等を聞くことは少ない状況です。家族会の開催も検討しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームとして自治会に入っていないませんが、管理者がホームと同マンションに住んでおり、自治会の役員であるため、回覧板や自治会の活動についての情報を得ています。また、民生委員から地域の行事について知らせてもらい、参加しています。中学校の音楽祭を見に行ったり、地域の祭りに参加し、交流を図っています。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念を掲げ、その中に「家庭的な環境のもとで、尊厳のある自立した日常生活を営むことができるように援助いたします」とあり、地域の中の家としても意識して作られています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は常に意識できるよう、玄関と休憩室に掲示しています。また、会議などでも管理職が中心となり、理念を再認しながらケアが実践できるよう話し合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームとして自治会に入っていないが、管理者がホームと同マンションに住んでおり、自治会の役員であるため、回覧板や自治会の活動についての情報を得ています。また、民生委員から地域の行事について知らせてもらい、参加しています。中学校の音楽祭を見に行ったり、地域の祭りに参加しています。	○	ホームとして、地域に出て行くばかりではなく、ホームの行事に地域の方々に来てもらいたいと考えています。地域の人々にもホームでの暮らしを知ってもらい、協力し合える関係作りのきっかけとなることを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価を受けて、外部研修の伝達研修を取り組み始めました。会議の時間を利用し伝達研修等の内部研修を行っています。また、言葉遣いの乱れについては、お互いに注意し合うことで、改善につながりました。今回の外部評価は、職員全員に自己評価の項目を周知し、計画作成担当者が中心となり職員と話し合いながら行い、管理者が最終的に取りまとめました。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、民生委員と高齢クラブ、市職員、家族、利用者、職員がメンバーとなり、隣接する同法人の小規模多機能施設と合同で運営推進会議を開催しています。ホームでの行事や暮らしぶりの報告を始め、地域との連携についてや要望、助言などについて話し合い、サービスに活かしています。		

あすか八尾グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、見学に来てもらったり、相談に行ったり、良い関係作りができています。相談に行った際には丁寧に対応してもらえるため、ホームでのサービスにつなげることができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に直接コミュニケーションをとったり、計画作成担当者が家族に向けて手書きで毎月手紙を書き、個々の入居者の日常の様子を伝えています。また、3ヶ月に1度の広報誌や月に1度出納簿を郵送しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に意見箱を設置し、第三者委員の設置などがあり、入居時に説明しています。面会時のコミュニケーションを通じて要望等を聞いていますが、要望等を聞くことは少ない状況です。家族会についても行いたいと考えていますが、日程調整など困難であり実現していません。	○	直接言いにくいことがあったり、なかなか面会に来ることができない家族の思いを聞くために、記入しやすい家族アンケートを考えてみてはいかがでしょうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、法人の異動はできる限り少なくなるよう配慮し、個々の職員とコミュニケーションをとりながら思いを把握することに努めています。また、退職がある場合も、開設当初から勤めている職員も多く、馴染みの関係を維持しながら新しい職員との関係作りのサポートをしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時には、管理職が法人やホームについての説明を行い、仕事を覚えるまでは、マンツーマンで教えています。往診に来てもらっている歯科や保健所から来てもらい、勉強会を行ったり、外部研修に行く機会も作っています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム分科会があり、勉強会や見学会を行い、交流を図っています。また、交流をきっかけに納涼祭など招待し合うなど、入居者の交流の取組みにもつながりました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来てもらったり、お茶を飲みに通ってもらったり、入居前から徐々に慣れてもらえるよう働きかけています。また、自宅を訪問し、家族からも話を聞くことで生活歴や環境を知り、入居後の環境作りに活かしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や掃除などの家事の方法を教えてもらったり、昔の歌を教えてもらったり、生活を共にする中で教えてもらうことも大切にしています。職員は、入居者が思っていることを言える関係づくりに勤めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々のケアの中で、気づいたことを計画作成担当者に伝えたり、担当者会議の中で本人の気持ちを中心に話し合いながら、思いを把握しています。包括的自立支援アセスメントとセンター方式のできることできないことシートを用いて、まとめています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホーム内で担当者会議を行い、ケアマネージャーと職員、家族等の意見を合わせて、介護計画を作成しています。ホーム内で対策が立てられない困難事例には、法人の会議で更に多くの意見を聞き介護計画に活かしています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングで、介護計画が順調に実施されているか評価を行い、6ヶ月ごとに再アセスメントを行い見直しを行っています。モニタリングの際に、状況の変化が見られた場合には、状況に合わせ、見直しを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	以前からのかかりつけ医に通院している入居者に通院同行したり、行きつけの美容院の送迎など、以前の生活が継続できるよう支援しています。また、希望に合わせて買い物や外食、お墓参りなどの外出の支援も行っています。現在適応者はいませんが、ADLの低下時には併設する小規模多機能施設の機械浴を利用することもできます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を聞き、かかりつけ医を決めています。提携医は、週に一度の往診を受け、医師との連携も密になっています。訪問歯科は週に一度の往診があり、また専門医が必要なときには受診の支援も行っています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に医療が常に必要となったときの対応などについては、家族に説明をしています。体調を壊したときや、入院をしたときには、家族とも職員とも話し合いながら対応しています。ターミナルケアの要望があったときに、対応していけるような体制作りをしたいと考えています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者、計画作成担当者を中心に、言葉遣いが乱れた時には注意しながら改善に取り組みました。また、個人情報の書類は、鍵付きの書庫に適切に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務マニュアルはありますが、その時の入居者の希望に合わせて過ごすことができるように支援しています。入浴や買い物、食事など個々のペースでできるよう対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力に合わせ、食材を切ってもらったり、盛り付けをしてもらったりしながら、食事の準備をしています。職員も一緒に食卓に着いて、同じ食事を食べながら食事を楽しんでもらえるよう支援しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の心身の状況に合わせて、気持ちよく入ってもらえるよう工夫しながら支援をしています。拒否がある人には時間帯や声のかけ方など変えてみたり、希望に合わせて夕食後の入浴などに取り組んでいます。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	用務員の仕事をしていた方は掃除をする習慣があったり、裁縫の得意な方は雑巾作りやズボンのすそ上げをしてもらったり、生活歴を踏まえ得意なことに役割を持ってもらえるよう支援しています。折り紙や花の水やりなど趣味、カラオケなどの楽しみごとを支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や気候によって頻度は違いますが、買い物や散歩など日々外出できるよう支援しています。急な外出の希望も職員同士協力しながら、できるだけ叶えられるよう対応しています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関には鍵をかけずにセンサーを設置し、センサーの音を察知したり、見守りを徹底しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自で年に2回、日中と夜間の災害を分けて避難訓練を行っています。町内会の会長に協力が得られるよう働きかけていますが、具体的な協力体制にはなっていません。	○	運営推進会議などで地域の住人の協力が得られるような話し合いを持ってみたい、避難訓練の際にマンションの住人の参加を呼びかけたりすることで、具体的な取組みにつながることを期待します。

あすか八尾グループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックし、記録に残しています。また、献立は管理栄養士の立てた献立を基本としており、栄養バランスも保たれ、刻み食やミキサー食など個々の能力に合わせた食事形態になっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	マンションの2階部分がグループホームになっており、ハード面でも家庭的な雰囲気があります。広々とした共有空間には、3ヶ所のリビングがあり、ソファや応接セットが配置してあり、寛げるスペースとなっています。また、花や季節の飾りをさりげなく行ったり、温湿度をチェックしたり、居心地の良い空間作りを心がけています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇やたんすなど以前から使い慣れた家具を持ってきてもらい、写真や置物など生活感あふれる居室となっている方も多くみられます。入居にあたりリサイクルショップで年代のあった家具を選び、落ち着いて過ごせるよう支援しています。		